

第 6 7 回  
東北地方交通審議会  
船員部会議事要録

平成 2 6 年 5 月 1 6 日

東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会

## 第67回船員部会

日 時 平成26年5月16日(金) 15:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、村上部会長代理、箭内委員、船津委員  
労働者委員 : 高橋委員、正路委員、野田委員  
使用者委員 : 鶴本委員(欠席)、佐藤委員(欠席)、湯村委員

運輸局 : 矢島海事振興部長、村木海事振興部次長  
遠藤海上安全環境部船員労働環境・海技資格課長  
鈴木海事振興部船員労政課長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

### 配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(平成26年3月分)  
資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)  
資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)  
資料4 新規求人・求職数(全国)  
資料5 有効求人・求職数(全国)  
資料6 有効求人倍率(東北管内)  
資料7 有効求人倍率(全国)  
資料8 平成25年度水産高校等卒業者就職等状況調べ  
資料9 新聞情報

## 議事概要

### ◎開 会

【村木海事振興部次長】

議事に入ります前に、公益委員の清水委員の後任に船津委員が任命されましたのでご紹介いたします。

〔船津委員紹介〕

【村木海事振興部次長】

〔第67回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

### ◎議 事

(1) 管内の雇用状況等について

〔船員労政課長より資料1から資料8に基づき報告〕

【長谷部部会長】

どうもありがとうございました。資料の2から8まで、資料1は全体ですね。資料1に関して2から7まで、そして水産高校、短大の卒業生の就職状況が資料8ですが、その全体を報告していただきました。

質問、ご意見等ございますでしょうか。

【高橋労働者委員】

資料1の3ページの東北管内の取扱件数の中で、求人、漁船その他26件と随分増えているんですけども、内容的なものが分かればお願いします。

【鈴木船員労政課長】

内容的には、内訳を言いますと、漁業取締船が7件、あと小型イカ、中型イカ釣りが10件というのが大きな増加の原因です。細かく言いますと、中型イカ釣りが8件、小型イカ釣りが2件、小型漁船が2件、漁業取締船が7件、まき網が1件、小型サンマが2件、漁業調査船が1件、練習船が3件、合計で26件ということになっています。

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございました。よろしいですか。（「はい」の声あり）

他に意見、ご質問等ございますでしょうか。はい、正路委員。

【正路労働者委員】

資料8の水産高校の卒業生のデータなんですが、これは本科生の卒業生ということで、括弧内の方は進学したというようになっているんですが、その人たちの追跡調査というのは、この学校の専攻科に進んだのであれば、専攻科を卒業した人のデータというのもあるはずなんですよ。例えば、八戸水産なら八戸水産でも本科生の中で、括弧で甲板の方が2人進学していますというようになると、その方が専攻科であれば、2年後にまたどういうところに就職というのがあると思うんですけども。

【鈴木船員労政課長】

卒業生、或いは船員就業者の数なんですが、この数自体が本科生と専攻科生徒の合計した数になっています。（「ああそうですか」の声あり）

それぞれ本科生何名、専攻科何名というくくりだと、合計で例えば八戸水産であれば甲板38名とあるんですが、これが本科生と専攻科と足した数というようになります。（「分かりました」の声あり）

【長谷部部会長】

何年か前の卒業生がこういう形で表れたということですね。これだけ抽出することはできるんですか。専攻科と短大の方の卒業生の就職先だけ出すということとはできるんですか。

【鈴木船員労政課長】

それはまず再集計というか、すれば…。

【長谷部部会長】

そういうデータが欲しいわけですか、正路委員。

【正路労働者委員】

いや、数字だけで結構です。

【長谷部部会長】

いいですか。

【正路労働者委員】

はい。

【長谷部部会長】

それでは、OKということでした。

【鈴木船員労政課長】

はい、分かりました。

【長谷部部会長】

他にございますでしょうか、よろしいですか。

では、無いようですので、報告をご承認いただいたということで、次の議題に進みたいと思います。ありがとうございました。

(2) その他

【長谷部部会長】

続きまして、議題の(2)です。情報交換ということになりますが、委員の皆さんから情報提供をよろしくお願いいたします。

労働者委員の方からお願いいたします。

【高橋労働者委員】

それでは私の方から、新聞情報で19ページに「カツオ船小名浜港」とあるんですけども、この船は大中まき網の船で、今カツオの状況というのは、皆様、新聞等、またニュース等でご存じだと思いますが、日本近海に冷水域、冷たい海水温があるために、なかなかカツオが回遊してこないというような状況になっています。それで、5月の中ぐらいですけれども、ようやくカツオが回遊してきている状況にあります。それで、この小名浜の船は、記載のとおり漁場が八丈島近海からこちら三陸沖の方が漁獲漁場になるわけですけれども、今、漁場としてはちょうど静岡県沖、ちょっとまだ西の方にあるわけです。ですから、まだ本格的にカツオが北上して来ていないという状況です。ただ、今この静岡県沖の方の漁場で操業している船は、大体50トン位ずつ

漁獲しているみたいで、その船が房総の勝浦、銚子の方に水揚げしています。

【長谷部部会長】

ありがとうございました。頑張っているという話ですね。

はい、どうぞ。

【野田労働者委員】

これも新聞情報なんですけど、5ページの「春風を受け洋上遊覧」、第18昭福丸の遠洋マグロ船の体験航海、体験実習航海といいますが、全国からこの船会社がツアーを組みまして、遠洋マグロ船を知ってもらおうということで企画した体験乗船で、19日、20日としたんですが、1日5回、30名ずつ乗せまして、マグロ船を紹介したということです。2日目には、俳優の渡辺 謙 夫妻が来ますと、昔から会社との付き合いもあるんでしょうけども、結構賑やかというんですかね、いいニュースというか、地元にとっては遠洋マグロ船を知ってもらいいいきっかけになったと思っております。

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございます。

他にございますでしょうか。使用者側、湯村委員だけですが、よろしく願いいたします。

【湯村使用者委員】

私、業界紙で気になった記事があって、今日皆さんにお話しをしたいと思ったのは、たまたま22ページに載せていただいていたので…。

V L G Cというのは、L P Gの液化石油ガスという貨物を大量に輸送する超大型のL P G船のことなんですけれども、ご覧のとおり80隻ぐらいですね。これは海外船主なんですけれども、向こう3年位の間に建造しようということだそうです。80隻というのは、既存船の50%位の数字で相当な増加になるんですね。

これに伴って、必要な船舶職員が900人、交代要員も入れると1,800人に達するというので、これがどういった形で我が国といいますか、内航海運を初め、我が国の船社にどういった影響が出てくるのか気がかりだなと思ってこの記事を見ていたんですけども、このことと別に下の方に出ていますけれども、日本は日本でL N Gの液化天然ガスの方の船を大手船会社が2017年から2020年の間に最大で90隻造くろうという話もあるんだそうです。こちらも丁度同じ人数なんですけれども、1,800人ほどの規模の船舶職員が必要だということで、今その養成に四苦八苦、課題として取り組んでいるという記事の内容です。

ここに載っていますけれども、やっぱりこういった状況になってくると、運賃、賃金の上昇とか、ヘッドハンティングなんかも心配されますので、日本の海運界にとっては、そういった日が間もなく来るやもしれぬというような状況だそうです。

船津委員の学校にも、今度はこういったところから色々卒業生採用の話が来るかもしれませんが、内航船員がただでも不足して大変な状況の中で、そういった船員の取り合いがこれからますます激しくなっていくのかなというようなことを感じたこの記事だったので、ちょっとお話しをしました。

【長谷部部会長】

よろしいですか。船津委員。

【船津公益委員】

今、丁度ご指名がございましたので…、これVLGCガスキャリアというのは、外航ガスタンカーでございます。資格的には1、2、3級位、船長等で1級になりますけれども、1～3級位の免状が対象になりますので、大体大学、高専卒業者という形になりますね。

うちの場合、卒業4級というのは、基本的には国内航路の資格でございますので、直ちにうちに影響してくるわけではないだろうと。

大学、高専の場合は、実際国際航路の船に就職なかなかできていない状態があるんですね。養成しても日本人の船員の賃金の問題で、就職できていないという部分があるので、まだ余力はあるかなと私は思うんですけども、ただ、賃金の問題でございまして、なかなかすんなり外国航路には乗れない状況はあるんですけども、ただ、船員が逼迫した状況というのは、もう本当に、年を追って以上に月を追って感じておりますが、我々も求職活動で景気がいい時も悪い時も、会社を回って就職をお願いしますということで言って回りますけども、どんどん船員不足というのは強烈になって参ります。

【長谷部部会長】

でも、外側から見ますと、（東北管内の水産系高校と海技短大卒業者を合わせたの船員就職者の割合が）従来の10%から25、26%に増えたとは言っても、（管内学卒者が）四百何十人いる中での80名位の（商船への）就職ということですね。

【船津公益委員】

そうですね。とは言いましても、本当はもっと求人を出したいという会社は多いと思うんですけど、「出しても、うちには回ってこない。」というところで、出さなければ、やっぱり求人の数というのは、ここにはこういうような数字で上がってきます。けれども、出したいんだけど出せないというようなところもいっぱいあると、その下にはありますので…。

【長谷部部会長】

（学卒求人が）来ている分に関しては、みんな供給しているということですね。

【船津公益委員】

はい、そうです。

【長谷部部会長】

そうですか。

【船津公益委員】

平成25年度の集計で、私どもの学校8校ございますので、ダブってカウントしておりますというか、この学校で1名、誰かよかったですということで、色々な学校に窓口を開きますから、そういうのを全部カウントしますと、昨年でしたら生徒数、学生数40名に対して、うちの学校で4.5倍ぐらいの数の求人は来ております。ですから、他の学校ともダブってカウントされている数ではございますが、かなり増えてきております。前の年が3点何倍ですから、ずっと増えてきています。

【長谷部部会長】

国際的な環境から見ると、払底するということまでなかなかいかないように私は見えるんですが、そうではないんですか。やっぱり外国人船員がたくさん雇われるという動きは止めようがないものとしてまだあるように思うんですが、そうではないん

ですか。

【高橋労働者委員】

この（新聞情報の）話というのは、多分外航関係ですので、外国人船員の方々が主だと思えます。それで、以前もLNG船が新造で増えた時に、やはり職員不足ということで、当時フィリピンの方の職業紹介所みたいな所に、求人票みたいなものが張られるみたいなんです。それで、船長職で100万円超える1カ月の給料というようなことも聞きました。また、そういうようなことになるのではないかと。各船社は、フィリピン、あとそれなりの地域の方に船員を養成する施設を造っています。

【長谷部部会長】

大枠は変わらないという話ですか。

【高橋労働者委員】

それなりに対応していくのではないかなとは思いますが。

【長谷部部会長】

何とか大丈夫だと。

【高橋労働者委員】

はい。ただ、今度コスト的にどうなっていくかという問題があるんでしょうけれども、今もう少し賃金の安い方にシフトしている傾向もあります。

【長谷部部会長】

ということで、あんまり深刻な事態にはならないかもしれないという話もあるんですが。

【湯村使用者委員】

ただ、そういったことで懸念されていますけれども、船員の質の低下というそういう面でちょっとご心配なところは…、大変な海難事故がこの間ありましたからね。

【高橋労働者委員】

また、今回は船が大きくなりますから、そういうような部分で…。

【湯村使用者委員】

乗船基準も相当厳しいといっていますけれども、それをクリアしないと、もちろん乗り組めないということですから。

【長谷部部会長】

景気が良くなったら良くなったで、ちょっと気の抜けないような状況が続くという話ですね。はい、分かりました。どうもありがとうございます。

それでは、これはよろしいですか。その他に何かございますか、どうぞ。

【野田労働者委員】

新聞の記事になるんですけども、7ページ、東北運輸局の方で立入検査というような、そういう点検をしたんでしょうけど、ここの中で大きな違反というか、そういうのがあれば…。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

旅客船の安全総点検ですか。

【野田労働者委員】

ええ、それについて。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

私もそちらの方は担当していませんけれども、海上安全環境部の調整官の方でまわっているんですが、聞いているところでは大きな指摘事項はなかったようです。

【野田労働者委員】

韓国の事故を通じて、船の安全、危険ということで、また船のイメージ悪くなったなという感じがして、ちょっと心配しているところです。乗る方も、お客さんの方も船は危険だなというようになるんじゃないかなということが…。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

旅客船の安全総点検は、韓国の事故に関係なく普通に毎年実施しているんですけれども、ただ、ああいう事故があったものですから、マスコミ関係から問い合わせが結構ありました、今回のことで。「点検は、韓国の事故の関係でするんですか」と。「いや、そうじゃないです。毎年しているんです。」ということで、先ほどお話ししたとおり、大きな問題はなかったようです。日本のフェリーは大丈夫だということだと思います。

【長谷部部会長】

日本の場合は、船長が先に逃げるなんていうことはあるんですか。考えられないので…。

【高橋労働者委員】

あれは異例です。その前に避難させるんじゃないですか。

【長谷部部会長】

避難させる船、救助艇が実はなかったという話で、飾りだったんでしょうか。

【高橋労働者委員】

いいえ、全部ついていたんですけれども、整備されていなかったんじゃないかと、ワイヤーで止まっていますから。カッターか何かで全部切ってやれば良かったんですけれども、ほんらい自動なり手動レバーで降りようになっているんですけれども、そのところがペイントなり錆びていて、動かなかったというような報道なんです。（「ああそうなんですか」の声あり）

だから、止めているワイヤーなり、バンドを切れば全部オープンになったんです。

【長谷部部会長】

そうなんですか。それは知らなかった。

【高橋労働者委員】

あの海上警察の方もちょっとおかしいなと。足で蹴っていて、そんなことをやるのであれば、そのバンドを切った方がいいんじゃないのかなと思いました。海上警察の方も実際の設備というのものを知らないのかなと、ちょっと疑問に思いました。

【船津公益委員】

船から外に出せなかったんですからね。出しさえすれば何とかあったのに…、全然海もしけていなくて、本当のなぎのいい天気だったと。

【高橋労働者委員】

救命胴衣を着けていれば、1日なり、2日なり浮いているわけですから…。

【長谷部部会長】

韓国の状況は、そういう状況なんですかね。ちょっとびっくりしちゃいますけれど

も。ということで、日本は大丈夫だという話ですね。

【高橋労働者委員】

日本の船は、色々と検査していますので大丈夫です。

【長谷部部会長】

危機的状況への対応も大丈夫だということで宣伝して下さい。ありがとうございます。

他にございますでしょうか、正路委員。

【正路労働者委員】

今年船員法が改正になりますよね。8月に実施されるということで、実はいわきとか小名浜の方だったんですが、私、昨年だったか、今年になってからか忘れたんですが、各地区とか、「海事事務所関係のあるところで、説明会をしてもらえないか。」というお願いをしたことが過去ございまして、それで、実はいわきの方でも実施されたかなと思ったら、船主さんの方から「何の話だ。」ということで色々問い合わせなどもあったので、運輸局の方も各船主さんに色々指導していただければなというところがございます。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

今お話ししたのは職員法の話ではなくてですか。

【正路労働者委員】

職員法ではなく、雇入契約関係は全く知りませんでした。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

昨年の3月に船員法は改正されています。事前に説明会が行われていますが、まだ、浸透していないようです。周知期間として、本年3月までとなっていました、延長されています。問題意識としては、今後、どのように周知を行うかということについて、中央でも考えているようですが、私が考えているのは、各漁協を通じて、もっと情報の提供を図り周知を行いたいと考えているところです。

【正路労働者委員】

というのは、いわきの方には周年で動かない船、臨時的に動くような船がサンマ船だけということもあるので、そうすると、役所の出入りが少なくなって情報もちよっと足りなかったなというように言われたもので、その辺はこっち（海員組合）でも対応していますので…。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

そうですね、もちろん考えています。それぞれ8月というか、去年3月の船員法改正の話しなのかなと思いますけれども。

【正路労働者委員】

よろしくお願いします。

【長谷部部会長】

それでは現場からの声だということで、どうぞよろしくお願いいたします。

それ以外にございますでしょうか。湯村委員、お願いします。

【湯村使用者委員】

新聞情報の一番最後のページに、退職自衛官の船員就業という記事がありますけれども、2013年度は、27人民間の船社に再就職されたということで…、うわさを聞きま

すと非常に優秀な方が多いということで、非常に好ましい現象だというように思っています。この記事の一番下の段の真ん中位になりますけれども、国交省の方も自衛官が民間企業へ移り易く、色々なメニューをこれまでも図って下さっているという話なんですけれども、更にというような要望があるようなんですけれども、その辺、具体的に、何か今現在進行中のものがあればちょっと情報として教えていただきたいなと思うんですけれども。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

今、私もこの新聞を読んだんですけれども、特に情報としてはありません。

自衛隊関係で思い浮かんだのは、確か自衛隊の方を採用すると、補助をする制度があったんですね。今もあるかどうか分かりませんが、その関係はあるのかなと思ったところです。免状があると非常に有効だということが書いていますけれども、これについては、特に情報としてはありません。

【長谷部部会長】

それでは、今後何か情報がありましたらご提供下さい。よろしくお願いいたします。

他にございますか、よろしいですか。

なければ、そろそろ時間ですし、今日はこれで議事終了とさせていただきたいと思えます。

◎閉 会